

人工呼吸器 ハミングX

平成22年度広域救急医療対策事業

初期救急医療施設及び救急患者の搬送機関との円滑な連携の下に、休日又は夜間における入院治療を必要とする小児の重症救急患者に対する医療を確保する目的として平成22年度広域救急医療対策事業費補助金の交付を受け整備を行いました。



以下に装置の簡単な特徴を記します。

- 1 小さな肺を守り、順調な成長を促す為に多彩な換気モードを搭載。
これにより挿管から抜管・ウィーニング(呼吸器離脱)まで、機種を変えることなく効率的に呼吸管理が行える。
- 2 タッチパネル付きグラフィックディスプレイの採用
シンプルな操作性とカラー識別による操作ボタンの視認性を確保しました。
- 3 口元フローセンサーの採用とフローアシスタントによるPTV
患者データのモニタリングは肺の保護には必須になっています。口元フローセンサーの採用により、患者データのモニタリングが向上。カラーグラフィックディスプレイ上に多様な数値、波形を描出し、患者状態を直感的に視認することが出来、患者様への次の判断をサポートします。又、微弱な患児の呼気に同期して換気を行うPTVの精度も向上。
- 4 警報機能の多様化と迅速対応へのサポート
モニタリングの多様化、表示のカラーグラフィック化により、警報内容の表示や、優先度分類が、より向上し対応の迅速化に対して、視認性と情報内容が向上しました。
- 5 バッテリーが内臓されており、電力供給が途絶えた場合でも自動でバッテリー電源に切り替わります。
- 6 HFOV
HFOVへ平均起動内圧(MAP)に対して正弦波を描きます。この正弦波の振動は、まず気管内チューブを通過し、気道内に入ると急激に減衰します。胸胞に近い末梢気道レベルでは、ごく小さな圧変化に過ぎません。このため同じMAPであってもCMV(持続的強制換気)にくらべて肺胞への物理的損傷を抑えることができます。

本装置の導入により、未熟児・新生児・小児分野での人工呼吸管理において、より幅広い患者様への対応が可能となり、人工呼吸管理下の患者様への対処の迅速化、多様化への貢献が期待されます。